

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第3部門第2区分

【発行日】平成21年11月5日(2009.11.5)

【公表番号】特表2008-500274(P2008-500274A)

【公表日】平成20年1月10日(2008.1.10)

【年通号数】公開・登録公報2008-001

【出願番号】特願2006-546489(P2006-546489)

【国際特許分類】

C 0 7 K 16/46 (2006.01)

A 6 1 K 39/395 (2006.01)

【F I】

C 0 7 K 16/46 Z N A

A 6 1 K 39/395 D

【手続補正書】

【提出日】平成21年9月11日(2009.9.11)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

既知の配列の動物抗体のVHおよびVL可変部のヒト化のための方法であって、

a) 入手不能であるならば、前記動物抗体のVHおよびVL部の結晶構造を得る段階と、

b) その構造が3以上の分解能で実験的に決定されたヒト起源またはヒト化抗体の0からn個の一連の可能なフレームワーク受容体を、前記動物抗体のフレームワークの一次配列との最も高いレベルの相同性および同一性に基づいて予備選択する段階と、

c) 前記動物抗体のVHおよびVL可変部とb)で得られたVHおよびVL部との間の構造比較をそれぞれ行い、各比較についてRMSを計算して、より小さなRMSを有するヒト起源のVHおよびVL部を同定する段階と、

d) c)で同定したヒト配列内の適当な位置に前記動物抗体のCDR部の配列を挿入する段階と、

e) 必要に応じて、c)で同定したヒトVHおよびVL部の1つまたは複数のアミノ酸残基を復帰変異させる段階とを含む方法。

【請求項2】

前記抗体の修飾は組換えDNA技術によって起こる、請求項1に記載の方法。

【請求項3】

前記動物抗体は抗TrkA抗体である請求項1に記載の方法。

【請求項4】

前記抗TrkA抗体はMNAC13抗体であり、前記ヒト化配列は本質的に下記配列:VH:HumMNAC13VH(配列番号37)およびVL:HumMNAC13Vk(配列番号38)を有する、請求項3に記載の方法。

【請求項5】

請求項1から4のいずれか一項に記載の方法に従って得られるヒト化動物抗体。

【請求項6】

請求項3または4に記載の方法に従って得られる抗TrkAヒト化動物抗体。